

～お知らせ～

市内の田において、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が確認されました。

このジャンボタニシは何でも食べ、水稻の苗（田植え後3週間程度まで）や、れんこんの幼葉などへの食害を引き起こします。

つきましては、被害を最小限に食い止めるため、下記のとおり防除対策や駆除へのご協力をお願いします。

ジャンボタニシについて

ジャンボタニシは、4月から9月頃まで活動し、田植後3週間程度の苗が特に被害を受けやすく、苗が大きくなると被害が少なくなります。

ジャンボタニシは、日が暮れると水中から上がり、草や用水路の壁に2から3ヶ月で赤い卵を数千個産み付けます。卵は約2週間ほどでふ化し、約2ヶ月で殻高1センチから3センチ以上のジャンボタニシとなります。

ジャンボタニシは寒さに弱く、大きなジャンボタニシは越冬できずほとんど死んでしまいますが、小さなジャンボタニシは土にもぐるなどして越冬し、春にまた活動することもあります。

ジャンボタニシ



ジャンボタニシの卵



ジャンボタニシの防除対策

1. 竹の子、青竹を水田に入れておくと、ジャンボタニシが集まってエサとし、苗を食べないようにになります。
 - (1) 竹の子（食用が難しくなったもの）を1平方メートルに1本置く。
 - (2) 青竹（枝の発生がない青竹）は皮はむかなくても竹の中に入り込む。1平方メートルに1本置く。
2. 浅水管理をする。（水深2センチ以下ではジャンボタニシは活動できません。）
田面の深水部分が無くなるよう、平らにしておくことが大事です。
3. 水路からの進入を防止する。
 - (1) 水口、水尻にメッシュ金網（網目5から20ミリメートル）を張り、付着したジャンボ

タニシを除去する。

(2) 水口に網袋(6から9ミリの目合い)を取り付け、ジャンボタニシが入ったら除去する。

4. けい畔を高くし、ジャンボタニシの進入を防ぐ。
5. 卵は水中では呼吸できないため、水中に落とす。
6. 冬期は、石灰窒素(10アールあたり20キログラム)を散布し、田を耕起する。
冬眠中のジャンボタニシが土から出て凍死します。

【お問い合わせ】

みよし市環境経済部産業課

電 話：0561-32-8015

ファックス：0561-34-4189